

地政学的な逆風や進捗の鈍化にもかかわらず、SDGs に対する世界的な取 り組みは堅調を維持している

*世界が「2030 アジェンダ」の最終段階に差し掛かる中、SDSN の新たな報告書はガバ
ナンスと実施の強化を提言*

2026 年 6 月 23 日 (フランス・パリ) — 「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」の期限
まで残り 4 年を切った現在、持続可能な開発目標 (SDGs) の進捗状況は依然として大幅に遅
れている。期限までに達成される見込みの目標はわずか 16%にとどまる。国連加盟国の大多数
は依然としてこの枠組みへのコミットメントを維持しているが、ごく少数の国々、とりわけ米
国は、持続可能な開発というパラダイムおよびそれを支える多国間機関に対して、積極的に反
対する姿勢に転じている。これらは、国連持続可能な開発ソリューション・ネットワーク
(SDSN) が本日発表した『*持続可能な開発報告書 (SDR)*』第 11 版における主要な調査結果
の一部である。

本年の SDR は、世界が「2030 アジェンダ」の最終段階に入り、ポスト 2030 枠組みの基盤作
りを開始する中、SDGs の実施強化と新たな国際協力を求めている。本報告書には、17 の
SDGs (持続可能な開発目標) についてすべての国連加盟国をランク付けした「*SDG インデッ
クス*」と「*ダッシュボード*」、および各国による国連システムへの関与度を追跡する「*国連主
導の多国間主義に対する各国の支持度指数 (UN-Mi)*」が掲載されている。

また、本報告書では以下の 2 つの新たな調査結果も紹介されている。1) 「SDGs に向けた政府
の取り組みに関する SDSN 専門家調査」、2) 127 力国を対象とした「SDGs の課題と実施手
段」に関する大規模な一般市民調査である。これらを総合すると、2030 年以降も SDGs の枠組
みを維持することに対する幅広い市民の支持が明らかになる一方で、ガバナンス、政策の取り
組み、実施能力において、地域や国ごとに著しい格差が存在することも浮き彫りになっている。
回答者全体において、2030 年以降も持続可能な進展を加速させるための最優先課題として、
資金調達、ガバナンス、科学とデータの活用を、強化が最も必要な分野として挙げている。

「持続可能な開発を世界的なパラダイムとする考えへの支持は、世界中で依然として強い。東アジアや南アジアをはじめ、多くの国や地域で顕著な成功事例が生まれている。紛争が続く中で持続可能な開発を達成することは不可能であり、平和こそが現代の最優先課題である」と、SDSN 会長であり本報告書の主執筆者であるジェフリー・D・サックス教授は述べた。「2030年という節目が近づく中、持続可能な開発の次の時代においては、実施に重点を置き、あらゆるレベルで強力な資金調達と効果的なガバナンスを確保することが、世界的な課題となるでしょう。」

「『2030 アジェンダ』は当初から野心的な取り組みであり、今日の地政学的逆風は多国間システムの強靭さを試している」と、SDSN 副会長であり、本報告書の主執筆者兼コーディネーターを務めるギヨーム・ラフォーチュン博士は述べた。「今こそ、すべての国が国連憲章の第1条をはじめとする原則を再確認し、信頼できるグローバルおよび地域的な安全保障体制の構築に向けて協力すべき時です。持続可能な開発の次の時代においては、改革されたグローバル金融アーキテクチャを通じた実施、大陸・地域・地方の機関のより一層の関与に加え、現場での説明責任、イノベーション、解決策の推進において市民社会や大学が中心的な役割を果たすことを優先しなければなりません。」

本報告書は、2026年6月22日午後11時59分（中央ヨーロッパ時間）より、[こちらから](#)オンラインで閲覧可能です。

レポートカード：<https://sdgtransformationcenter.org/reports/sustainable-development-report-2026>

データ可視化：<https://dashboards.sdgindex.org/>

UN-Mi データ可視化：<https://dashboards-unmi.sdgindex.org/>

引用情報：Sachs, J.D., Lafortune, G., Fuller, G., Iablonski, G. (2026). Implementing Sustainable Development 2030 and Beyond. Sustainable Development Report 2026. Paris: SDSN, Dublin: Dublin University Press.

今年の SDR は、以下の主要な調査結果を強調している：

1. **SDGs に対する世界的なコミットメントは依然として強い。** 大多数の国が持続可能な開発に言及する国連総会 (UNGA) 決議を引き続き支持しており、2025 年には 193 の国連加盟国のうち 170 力国以上がこれらすべての決議を支持した。アルゼンチンと米国は、持続可能な開発の枠組みに関連する決議に対して一貫して反対票を投じた唯一の国であった。
2. **SDGs の進捗において、東アジアおよび南アジアは他のすべての地域を上回っている。** 東アジアおよび南アジア諸国は、2015 年以降、最も著しい SDGs の進捗を記録している。主要経済国の中では、インド (+18) と中国 (+14) が順位を最も大きく向上させた。今年の SDG インデックスではフィンランドが首位となり、スウェーデンとデンマークがそれに続いた。しかし、これらの上位国でさえ、SDG 12 (責任ある消費と生産)、SDG 13 (気候変動対策)、SDG 14 (海洋の豊かさ)、SDG 15 (陸の豊かさ) において重大な課題に直面している。これは、持続不可能な消費パターンや、国際的な負の波及効果が一因となっている。
3. **都市、環境、持続可能な農業・食料システム、平和に関連する目標は、特に目標達成から大きく外れている。** 中でも最も懸念されるのは、SDG 11 (持続可能な都市とコミュニティ)、SDG 14 (海洋生物)、SDG 15 (陸上の生態系)、および SDG 16 (平和、正義、強固な制度) である。指標レベルでは、目標から最もかけ離れている分野には、持続可能な農業への進展 (SDG 2)、肥満の有病率 (SDG 3)、ならびに行政手続きの迅速性、報道の自由、および **腐敗認識指数** (SDG 16) が含まれる。対照的に、世界レベルで進展が見られる指標もいくつかあります。これには、モバイルブロードバンドの契約数とインターネット利用の増加 (SDG 9)、10 代の出生率と HIV 感染率の低下 (SDG 3)、および電力へのアクセス拡大 (SDG 7) が含まれます。
4. **国連主導の多国間主義へのコミットメントにおいて、バルバドスは 1 位、米国は最下位となっている。** バルバドスは、SDR の「**国連に基づく多国間主義への各国支援指数 (UN-Mi)**」において、**国連に基づく多国間主義への取り組みが最も進んでいる国として** ランクインしている。この指数は、6 つの主要指標を用いて、各国の国連システムへの関与および SDG 17 (目標達成のためのパートナーシップ) への支援を評価するものである。この指数の反対側では、米国が最下位となっている。これは、2026 年 1 月に

60以上の国際機関から脱退したこと、2025年の国連総会（UNGA）の記録された投票のうち国際的な多数派と一致した投票がわずか5%であったこと、そしてSDGs、2030アジェンダ、パリ協定に正式に反対していることなど、米国連邦政府による最近の行動によって浮き彫りになっている。

5. **持続可能な開発の次の時代において、実施の強化は最優先課題である。**2026年、SDSNは、SDGsの実施に向けた各国の政府の取り組みと障壁を評価するため、64カ国および欧州連合（EU）のネットワークに加え、127カ国から1,000名以上の回答者を対象に調査を実施した。回答者の多くは2030年以降もSDGsの枠組みを維持することに賛同しており、資金調達、ガバナンス、科学とデータの活用を最も強化が必要な分野として挙げています。進捗状況に対する見方は地域によって大きく異なり、東アジアおよび南アジアでは、国や地方レベルでのSDGsの達成状況についてより楽観的な評価が報告されています。

6. **今後数十年の持続可能な開発に向けた8つの優先事項。**本報告書は、2030年以降に向けた進展を加速させるための8つの優先事項を特定している：(1) 進行中の戦争を終わらせ、軍事支出を平和と人間開発へと振り向けること；(2) SDGs実施のための野心的なタイムラインを確立すること；(3) 6つの主要な変革を中心に実施を組織化すること；(4) これらの変革を支援するための長期投資計画を採用する；(5) 大陸間、地域間、および地域レベルの協力と投資を強化する；(6) グローバル・パブリック・グッドの財源確保のために新たな国際税を導入する；(7) AI、バイオテクノロジー、その他の新興技術に関するグローバル・ガバナンスの枠組みを構築する；(8) アジア、アフリカ、ラテンアメリカに新たな国連キャンパスを設立する。

2016年以来、SDRは、SDGsに関するすべての国連加盟国の実績を追跡・評価するために利用可能な最も包括的なデータを提供してきました。今年の版では、約25万件の個別データポイントを活用し、200以上の国・地域別SDGプロフィールを作成しています。本報告書は、SDSNの旗艦イニシアチブであるSDGトランスフォーメーション・センターの独立専門家グループによって作成されました。

メディアお問い合わせ先

Alyson Marks, alyson.marks@unsdsn.org (コミュニケーション・ 対外関係責任者、米国在住)

ギヨーム・ ラフォーチュン、 guillaume.lafortune@unsdsn.org (SDSN 副会長、主任コーディネーター、報告書著者、マレーシア在住)

SDSN について

[国連持続可能な開発ソリューション・ネットワーク](#) (SDSN) は、国連事務総長の後援のもと、2012 年から活動を展開しています。SDSN は、持続可能な開発のための実践的な解決策を推進するため、世界的な科学技術の専門知識を結集しており、これには「持続可能な開発目標 (SDGs) 」や「パリ協定」の実施も含まれます。私たちは、世界が直面する相互に関連した経済的、社会的、環境的課題に対処するための共同学習を加速させ、統合的なアプローチを推進することを目指しています。SDSN の主要な取り組みの一つである「[SDG トランスフォーメーション・センター](#)」は、『持続可能な開発報告書 (SDR) 』を発行するとともに、SDGs の達成に向けた道筋、政策、資金調達に関する科学的に裏付けられたツールや分析を提供しています。

詳細については、unsdsn.org および sdgtransformationcenter.org をご覧ください。

*本プレスリリースは、*DeepL Pro* を使用して英語から翻訳され、ネイティブスピーカーによる校正を受けています。